

21世紀農林業 ・ 越後から発信！

スマート農業/農業DXが拓く新潟の農業

2月20日（月）開催いたしました！

今年度は対面およびオンライン（ZOOM）のハイブリッド方式にて開催いたしました「にいがた夢農業・人づくり共通講座公開シンポジウム」は今回で第9回目となりました。新潟大学その他、新潟県農業大学校、新潟食料農業大学、新潟県・県内市町村関係者など計144名の参加がありました。

スマート農業/農業DXをテーマにした今回ですが、実際に自動化や省力化設備を導入している農家さんやIT活用支援をしてこられた新潟市・県の担当者の方々から具体的な講演を聴かせていただきました。

【主なプログラム】

講演① 「大規模施設栽培における省人化テクノロジーと最適な運用方法」

近藤 史章 氏 エンカレッジファーマーミング 株式会社

講演② 「佐渡島特産「おけさ柿」大規模経営へのスマート農業技術体系の導入実証」

川上 輝雄 氏 佐渡農業協同組合営農振興部営農振興課
(前 JAファーム佐渡 代表取締役社長)

講演③ 「新潟市のスマート農業普及への取り組み」

佐藤 拓也 氏 新潟市農林水産部農林政策課生産政策係 係長

講演④ 「経営発展に向けたIT活用支援」

小林 昭文 氏 新潟県農林水産部経営普及課 副参事

講演⑤ 「農業DXを担う高度人材育成に向けて」

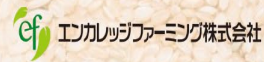
輿石 裕之 新潟大学農学部 特任助教

パネルディスカッション 「スマート農業/農業DXの新潟県における現状と未来」

パネラー 近藤 史章 氏 川上 輝雄 氏 佐藤 拓也 氏

小林 昭文 氏 輿石 裕之

講演① 近藤 史章氏



スマート農業/農業DXが拓く新潟の農業

大規模施設栽培における省人化テクノロジーと最適な運用方法

令和5年2月20日

エンカレッジファーム(株) 近藤 史章

講演② 川上 輝雄氏

佐渡島特産「おけさ柿」大規模経営へのスマート農業技術体系の導入実証



JA佐渡 営農振興部営農振興課
川上 輝雄

1

講演③ 佐藤 拓也氏



新潟市のスマート農業普及への取組



令和5年2月20日
新潟市 農林政策課

Copyright© Niigata city ALL Rights Reserved

1

講演④ 小林 昭文氏

経営発展に向けたIT活用支援

令和5年2月20日
新潟県農林水産部経営普及課

講演⑤ 輿石 裕之



農業DXを担う高度人材育成に向けて

スマート農業／農業DXが拓く！新潟の農業

新潟大学農学部 特任助教 輿石裕之

2023-02-20



3年ぶりの一部対面開催！



パネルディスカッション



たくさんのご参加有難うございました。

講演① (近藤 史章氏)

自社のケースを使って、自動化・DX化を分かりやすく説明していただきました。時間があれば導入した経緯（機械の選定、調製等）を聞ければ、更に良かったと思います。

漠然と機械化の話は何度も耳にしていたが実際どんな手段で働き手の負担を軽減させているのかを目にできた。

大規模経営で新潟の農業に活気を取り戻そうというマインドがとても強いと感じた

講演③ (佐藤 拓也氏)

次年度、私の使用する田植え機についても様々な情報やメリットを知ることが出来た。他にもフードサプライチェーンは初めて知ったので自分でも調べてみたい。

ドローンによる圃場の可視化が興味深かった

ドローンや人工衛星、ICTコンバインなど水稻のスマート農業は進んでいるなど感じた。園芸品目でもこのくらい省力化技術が進めばな、と思った

講演⑤ (興石 裕之氏)

農業分野のデジタル化を図る上では、最先端の機器を導入し、使いこなせるようになることが必要なのではなく、機器から得られたデータを活用し、営農に活かす技術を身につけることが必要だという考え方が、今後大学で農業データサイエンスを学ぶ上で、重要な考え方になると思った。

余裕が新たな発見につながり、新たな発見が余裕を生むという言葉が印象的でした。

講演② (川上 輝雄氏)

露地栽培で効率化できていること、また成果まで長く時間がかかる果樹栽培で農業DXを成功させている（課題はまだまだあるとおっしゃっていたが）ことがすごい。農業経験の豊富な方が農業DXに積極的になることがいちばんの近道だと思った。

近藤さんのミニトマトとは違い屋外での柿の収穫に関する内容で二人の比較ができたのでなおさらわかりやすかったし、相違点もおもしろかった。

講演④ (小林 昭文氏)

スマート農業＝最先端の機器を用いて作業効率を上げる、というイメージを持っていたが、経営管理や人材育成においてもITの活用が有効だということが新たな知識になった。

デジトレ診断をきっかけにして、農家さんもしくは新規参入したい方々に、農業DXは未来に希望が持てる取り組みであることをもっと知ってもらえるといいなと思った。

パネルディスカッション/全体の感想

有識者同士の会話で自分の中で新たに疑問や気付きを得る機会になった。

データの蓄積の第一歩として、研究室を超えて各学部ごとにでもデータを集積したらよいのではないのでしょうか。

農業の工業化という言葉が頭をよぎるほどに、農業の効率化、自動化について、工業ととても類似している部分を感じ、また、そのことが改めて印象的だった。